

ぼく　さま　うで　うたが
僕はもうイエス様の腕を疑うことをやめた。

ところ　つ
どんなへんてこな所へ連れていかれようとも、

もんく　じてんしゃ
文句をいわないで　せっせと自転車の

まな
ペダルをこぐことを　学んだんだ。

ま
そうしたら、いつの間にか

けしき　たの　でき
景色を楽しむゆとりが出来てきた。

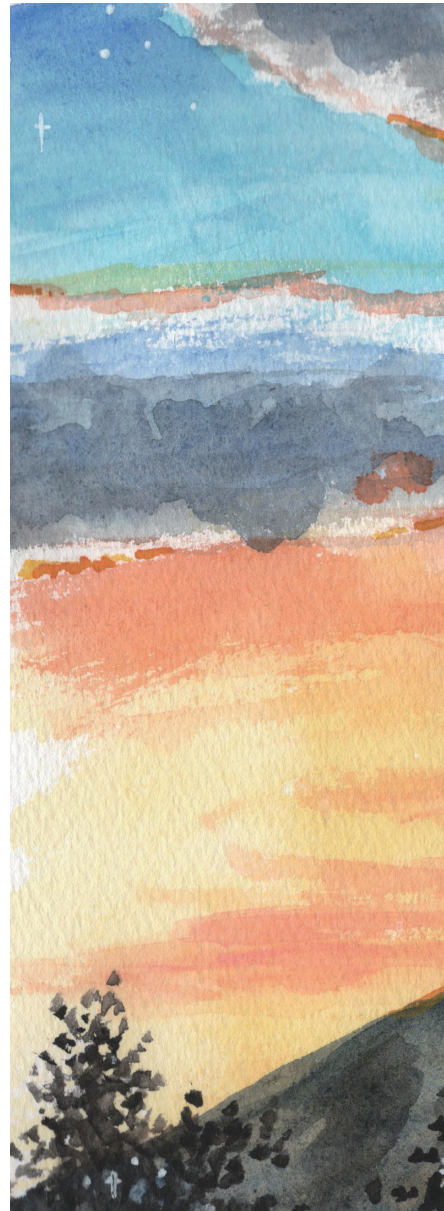
ぼく　ひたい　きも　かぜ
僕の額をなでる気持ちのいい風を

たの
楽しめるようになった。

ぼく　いっしょ
どんなときでもいつでも僕と一緒に

ペダルをこいでくださっている

さま　いっしょ　たの　たび
イエス様と一緒にの楽しい旅だから。



ぼく　さま　しんらい
そうこうしているうちに僕はイエス様のことを信頼することを
まな　ぼく　じんせい　ぼうけんりょこう　か
学んだんだ。僕のたいくつだった人生は冒険旅行に変わったよ。

とき　こわ
時には怖くなることもある。

とき　さま　こわ
でもそんな時はイエス様に「怖いです！」っていうんだ。

さま　うし　て　の　ぼく　て
そうするとイエス様が後ろに手を伸ばして、僕の手をぎゅっと
にぎ　くだ
握って下さるんだよ。



イエス様は僕をいろんな贈り物をもった人達のところへ連れていっ
て下さった。喜びの贈り物、癒しの贈り物、愛の贈り物、
許しの贈り物… 彼らは僕とイエス様の旅に持っていくようにって、
いろんな素晴らしい贈り物をくれたんだ。
そしてもらった贈り物をもってまた旅に出る。

するとイエス様はおっしゃるんだ、
「もらったものは他の人にあげてしまいなさい。僕たちふたりの旅に
はそんなに荷物はいらない。」だから僕はそれらの素晴らしい贈り物を
次に出会った人達にあげたんだ。
そしたらその人達がまた新しい贈り物をくれてさ…もらってはあげ、
もらってはあげの繰り返しだよ。



まあそういうわけで、
初めはイエス様のことを信用していなかったんだ。
きっと僕の自転車を台なしにするんじゃないかって、疑っていた。
でもイエス様の自転車さばきは最高だよ。どんな急カーブも、
ものすごい下り坂も、落とし穴でも邪魔な岩でも、
ちゃあんとクリアできるんだよ！